

令和8年度第2回 仙台市立病院地域医療支援委員会 議事録

- 1 日 時 令和8年8月26日(水) 18:30～19:15
- 2 会 場 仙台市立病院 本院3階第3会議室
- 3 出席者 福壽岳雄委員長、渡辺徹雄副委員長、石川一郎委員、宮崎敦史委員、土門利佳委員
熱海眞希子委員、佐々木葉子委員、清水充委員、小荒井晃委員、佐々木裕子委員
【オブザーバー】仙台市病院事業管理者
〔事務局〕中田副センター長、八幡副センター長、佐藤室長、菅原診療情報管理士
- 4 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 病院事業管理者あいさつ
 - (3) 委員紹介
 - (4) 委員長の選出及び副委員長の指名
 - (5) 議事録署名人指名
 - (6) 会議の公開
 - (7) 議事
 - ・地域医療機関から仙台市立病院に寄せられた意見について
 - (8) その他
 - (9) 閉会
- 5 配布資料
 - ・資料1 地域医療機関から仙台市立病院に寄せられた意見について
 - ・参考資料 仙台市立病院地域医療支援委員会設置要綱

<議事概要>

- (1) 開会
- (2) 病院事業管理者あいさつ
- (3) 委員紹介
- (4) 委員長の選出及び副委員長の指名

宮崎敦史委員から委員長として福壽岳雄委員の推薦があり、異議なく承認された。
その後、福壽委員長が副委員長として渡辺徹雄委員を指名された。
- (5) 議事録署名人指名

議事録署名委員 佐々木裕子委員に依頼
- (6) 会議の公開

会議公開の確認 ⇒ 異議なし(傍聴人なし)
- (7) 議事
 - ・地域医療機関から仙台市立病院に寄せられた意見について(事務局から資料1を説明)

(質疑応答の概要)

【石川一郎委員】

地域の診療所にとって土曜日午後の急患センターは非常に助かっている。診療終了後に状態悪化が懸念される患者についても、急患センターを案内できることで患者や家族に安心して帰宅してもらっている。

一方で、病院へ電話した際の対応は、医師や看護師によって印象が大きく異なる。病院としての考え方は共有されていると思うが、実際に窓口対応を行う職員にも地域医療連携の考え方を浸透させていただきたい。

【渡辺徹雄副委員長】

救急現場は常に多忙な状況にあり、電話対応時に十分な説明ができないこともある。大変申し訳なく思っている。

現在は開業医からの相談について医師が直接対応する運用としており、平日日中は救急救命士によるトリアージも実施している。今後も相談しやすい体制づくりに努めていきたい。

【宮崎敦史委員】

開業医の立場からは、受入れの可否よりも、まず迅速に回答をもらえることが重要である。患者を前にして紹介先を探しているため、受けられるかどうかだけでなく、できるだけ早く返答をもらえると助かる。

また、高齢患者などではどの診療科へ相談すべきか判断に迷うケースもあるため、相談窓口があるとありがたい。診療科が異なる場合でも院内で相談しながら診療につなげてもらえると地域医療機関としては助かる。

【渡辺徹雄副委員長】

専門医が手術中である場合や病床状況の確認が必要な場合もあり、直ちに回答できないこともあるが、可能な限り迅速な対応に努めていきたい。

また、相談先が分かりにくいケースや診療科の選択に迷うケースへの対応については今後検討を進めるとともに、院内の診療科間連携についても改善を図っていきたい。

【佐々木葉子委員】

救急救命士によるトリアージ体制について、対応している救急救命士は市立病院の職員なのか。

【渡辺徹雄副委員長】

現在対応している救急救命士は当院の嘱託職員であり、元消防職員も含まれている。救急患者受入れの支援業務を担当している。

【熱海眞希子委員】

Doctor to Doctor による医師間直接相談体制は非常に機能していると感じている。医師同士であれば相談内容も伝わりやすく、紹介元として安心できる。

一方で、他院では十分な教育を受けた看護師が窓口となり、迅速に受入れ調整を行っている事例もあり、そのような体制も参考になるのではないかな。

【佐々木裕子委員】

当院でもトリアージを担当する看護師がおり、今後さらに知識や対応能力の向上に努めていきたい。

【渡辺徹雄副委員長】

現時点では看護師のみで受入れの最終判断を行う体制には至っていないが、今後の課題の一つとして考えていきたい。

【土門利佳委員】

日頃より迅速に救急患者を受け入れていただき感謝している。

また、顔の見える関係があることで相談しやすくなる。一方で、過去に相談の際に冷たく感じる対応を受けた経験もあり、相談する側の立場にも配慮した対応をお願いしたい。

【渡辺徹雄副委員長】

不快な思いをさせてしまい大変申し訳なく思っている。相談元医療機関は困って電話をしているという認識を職員間で共有し、改善に努めていきたい。

【清水充委員】

アンケートの回答率は21.4%であるが、回収率向上に向けた工夫や、回答者へのフィードバックをどのように実施しているのか。

(事務局)

地域連携のつどいの案内と併せてアンケートを実施している。今後も設問内容や実施方法について検討し、回答率向上に努めたい。

また、本委員会での議論内容も地域医療機関へフィードバックしていきたい。

【福壽岳雄委員長】

市立病院には総合病院として、複数の診療科にまたがる症例や地域医療機関で対応が困難な患者を積極的に受け入れていただきたい。

患者を診療科単位で捉えるのではなく、病院全体として受け止めることが重要であり、「当科ではない」と紹介元へ戻すのではなく、院内で連携しながら診療を継続していただきたい。

【小荒井晃委員】

地域医療機関から信頼される病院となるためには、迅速な対応と難しい症例の受入れが重要である。

また、顔の見える関係づくりは重要であり、今後も医療機関訪問等を継続しながら信頼関係の構築に努めていきたい。

【奥田病院事業管理者】

委員からいただいた意見を踏まえ、受入れ可否の迅速な判断と院内連携の強化に取り組んでいきたい。

地域医療機関から信頼され、選ばれる病院となるよう受入体制の充実を図っていきたい。

(8) その他

特になし

(9) 閉会

議事録の記載内容につきまして、すべて相違ありません。

令和 8 年 10 月 9 日

議事録署名委員

佐々木 裕子

